

新書紹介

横浜スポーツ百年の歩み

監修 筑波大学教授 成田十次郎

横浜市教育委員会 A4判 四四八頁 四、五〇〇円

横浜でははじめての本格的なスポーツ史の本である。横浜市政一〇〇周年の記念出版の企画に、スポーツ史が選ばれたこと自体、正直言っていたいへんな驚きである。なぜならば、市民生活を通してスポーツの歴史をまとめようとする試みは、この「横浜スポーツ百年の歩み」が、わが国においてははじめてだからである。スポーツが、ようやく文化として認められたということだろうか。

スポーツを題材としたものが、歴史の読み物として人気があるのは、決して新しいことではない。スポーツに取り組み姿は、さまざまな人間模様を見ることのできるからである。また、今

日のスポーツ情報は、スポーツ新聞の売れ行きやテレビのスポーツ番組の視聴率に人気の高さをみることが出来る。

しかし、スポーツを一般の市民が楽しめるようになったのは、横浜に限らず、世界各国においても、約一〇〇年前位からである。今日のように多くの市民がスポーツに参加するようになったのは、ごく最近のことである。

この本の意図は、市民の生活の中のスポーツを描こうというものであった。つまり、これまでの体育史やスポーツ史と呼ばれた本のように、スポーツの記録や学校体育の制度の歴史では、市民のスポーツが見えないと考

えたからである。

スポーツで活躍した横浜の著名人や、かつてのスタープレイヤーの名前が挙げられていないのは、このような意図からである。

新聞の記事などを詳しくみてゆくと、各地域での市民のスポーツの動きが、見えてくる。これは、決して競技会だけではなく、市民の参加する楽しいスポーツの姿である。また、スポーツの概念を広義に理解して、ドイツ流の「身体文化」で押さえるとすれば、市民生活とスポーツが、各時代の思想、風土、慣習等と密接に結びついていることがわ

反町公園のラジオ体操（昭和42年）



かってくる。

例えば、スポーツは、各地域での「祭り」「行事」「まちづくり」「国際交流」などと関連をもっている。

また、この本では、各項目ごとに、市民や子どもが語るスポーツについてのエピソードや感想が、コラムとして掲載されている。スポーツについての生の声

として、それぞれの時代を読み取るのも楽しい。

ただ、この本で集められた写真や資料は、必ずしもすべてがオリジナルなものではない。しかし、これまでの横浜に関する情報の中から、スポーツに焦点をあててみると、これだけ注目すべきことが見えてくる。ことがわかっただけでも、この本の意義は、十分である。横浜のスポーツ史が、新しいスポーツ史研究の参考となることは、まちがいないであろう。

資料編や年表を一読するだけでも、横浜のスポーツ史として解決されなければならない問題が、数多くみられる。情報化時代を迎え、集められた資料や写真が、市民の身近な財産として保存され、更に、新しい資料が発掘されることが望まれる。

三〇〇万人市民のスポーツ体験が、新しい横浜スポーツ史の基盤になる。この本をめくりながら、次の一〇〇年に描かれるための市民スポーツの発展を期待したい。

△日本体育大学講師
大河内保雪▽